

平成29年度 第1回 和泉総合高校 学校協議会 記録

日時 平成29年7月22日(土) 9:30~11:40

場所 本校 応接室

出席者 委員 (敬称略)

古川 恵美 (会長) 葛城 雅之 一井 正次 竹田 竜彦
川端 幹子 下荒神 亜矢子

学校・事務局

校長 事務部長 教頭 (2名) 首席 (2名) 教務部長 生徒指導部長
進路指導部長

1. 挨拶 校長挨拶、出席者の自己紹介

2. 学校報告

① 学校経営 (校長)

エンパワメントスクールへの改編を踏まえ、“自己と他者を大切にできる豊かな感性”“自己実現・社会貢献できる人材”の育成が最重点となるようにした。人間関係とコミュニケーションの取り方を学ぶことが大切である。また「安全安心な学校づくり」「基礎学力育成」「キャリアプランニング」を三つの柱として挙げた。また、保護者・地域に機会をつくって学校を見ていただくようにしていきたい。オープンな学校をめざす。

いじめ事象については、迅速に対策委員会を開催し、アンケートの実施・関係生徒の指導をして、当該保護者に説明しています。

施設の老朽化が進んでいます。エンパワメントスクールへの改編でついでに予算で廊下の照明をLED照明にかえて、校舎内を明るくできました。また、PTAのご協力で老朽化して事故の恐れのあるバレーボールの支柱を交換することができました。また子どもたちのために、PTAのご協力をお願いします。

② エンパワメントスクールについて (首席)

本校は、就職や進学で必要となる基礎的な学力と教養を育成することにより、生徒が将来の夢を持ち、社会で活躍できるチカラを身につけることを目標としています。また社会のルールやマナーを守る意志、自己と他者の違いを認める感性、他者と共感できるコミュニケーション力などを育みます。本校の特色を理解し、自分の可能性を伸ばそうとする次の生徒を求めています。

1. 欠席・遅刻をせず学校生活を充実させ、授業を大切にする生徒
2. クラブや地域活動などの課外活動にも積極的に参加する生徒
3. 自分も他者も大切にして思いやりを持つ生徒
4. 将来の夢を考え何事にも最後まであきらめない生徒

③ 進路指導 (進路指導部長)

学校推薦で 70 名、自己開拓で 7 名の 77 名、今春の卒業生 157 名の約半数が就職である。学校推薦のうち、指定校求人が 44 名、公開求人が 22 名、ハローワークが 4 名である。指定校求人は製造業が多く、販売職（小売業）は公開求人が多い。また地域的に、製造・物流・警備の業種が多い。閑空関係で女子の警備（セキュリティ）職も増えている。他に理美容や自動車整備への就職もある。進学は大学短大 9 名ではほぼ指定校である。専門学校は 32 名で、理美容・自動車整備・調理などである。

今年の 3 年のうち、現時点で就職希望は 101 名である。それに対して指定校求人は 180 件である。就職指導は、保護者も入った懇談を現在行っている。希望が決まれば、応募前職場見学に進む。昨年も見学の結果で希望を変えた生徒がいるので、しっかりと指導している。また面接指導は教員だけではなく、指導員も含め何度も行っている。就職選考は、面接以外に筆記テストや作文以外に、適性検査として SPI をするところがあり難しくなっている。就職希望の傾向はまず近隣を選んでいる。

④ 生徒指導（生徒指導部長）

昨年度に、SST（ソーシャルスキル トレーニング）の教員研修を行った。現在の生徒の傾向として、他者と折り合いをつけることが難しく、**非難**されると全否定と受け取る生徒が増えている。価値観や行動規範が違う生徒への指導は難しく、研修の効果がすぐに出るわけではないが、生活指導部が引き続き SST に取り組んでいきたい。

本年度より頭髮指導を開始した。また平成 30 年度のエンパワーメントスクールの改編にあたり、生活習慣を整える指導が必要と考え遅刻指導の導入を予定している。

⑤ 教務（教務部長）

2 年の 1/3 の時間がセットと呼ばれる選択科目群である。それが 3 年にも継続される。例年、生活（家庭）の人氣が高いが、今年の 1 年の調査でも 20 人の定員に対して 54 人であった。

平成 30 年度のエンパワーメントスクールの改編では、生活（「くらしと保育」系列）の定員を倍の 40 人にするなど生徒のニーズに答えている。他に改編で大きくかわる教育課程を検討しつつ、授業規律の確立をすすめている。

3 協議 進行＝古川会長

○平成 28 年度の卒業生は 157 名と聞いたが、入学者は何名で残りはどうしたのか。

入学者は約 240 名で、80 名ぐらいが中途退学・転学をしています。転学して通信制で卒業する生徒もいます。原因として、欠席・遅刻の多さが第 1 にあげられます。バイト・夜遊び等で生活習慣ができていなかったり、朝起きられない、それで遅刻する、欠席するということになると思います。また就学支援金の受給制度の変更で、他の高校に行く場合、一旦退学する方が長く受給できるようです。これも退学の増加の原因のひとつになっていると思います。

エンパワメントスクールにおいては、基本的な生活習慣を身に付けるために、体験学習・ICT 学習・体験的行事などで、学校へ行きたいという意欲を育てていきたいと思っています。

○ SST（ソーシャルスキル トレーニング）とは何ですか。

幼い頃の集団での遊び等の経験が少なく、人間関係がうまく結べない。感情のまま言葉を発する。例えば**非難**されると全否定と受け取る生徒が増えている。それで切れて暴れるか落ち込むかということになります。トレーニングではこうならないように、友好関係が

築けるように指導していきます。もともとは支援学校で取り入れられたものです。

○PTAの情報交換会で感じたことですが、この学校は先生は、頼んだことはすぐにやってくれる。また、生徒に対する面倒見が非常にいい学校だと思います。感謝しています。新しい先生にも伝えてほしい。

○卒業単位は74単位ということですが、単位についての理解が生徒も保護者にも不十分な気がします。どこかで説明の場があるのですか。

入学式の直後の説明会と入学後すぐの三者懇談で説明しています。

○私の学校は中学校ですが、非常に課題が似ています。自分の思いを自分の言葉で伝えられ、人の思いを感じ取れる感性を持つ生徒を育てる必要があります。中高連携をしっかりと、保護者の了解をえての情報交換や合同ボランティア、合同指導を共にしていきたいと思います。また、中途退学を減らすのも中高連携が大切であると考えています。